

広報させぼ 情報カレンダー 04. 1月



日	月	火	水	木	金	土
毎月第1水曜 中小企業金融公庫出張相談 (13~15時、佐世保商工会議所)				1 元日	2	3
毎月第2金曜 発明相談(10時~15時30分、市役所10階) はっけん!たいけん!すいぞくかん(3月までの第2・4土曜、 西海パールシーセンター)						
4	5 官庁仕事始め	6 消防出初式	7 中小企業金融公庫出張相談	8	9 発明相談	10
11 成人式 小柳賞佐世保シ ティロードレース 大会	12 成人の日	13	14	15	16	17 スピカ・カレッジ 動物獣舎探検隊 (31日)
18 自然観察エコス クール マガモがやってき た(観察会)	19	20	21 市立総合病院の 健康教室	22	23 スピカの「ビデオ でトークしま専科 (30日)」	24 特設人権相談所 が開設 子育て講演会
25 市児童管弦楽団 定期演奏会 松の手入れ講習 会	26	27	28	29 出前保育「みんな よっといでー!」	30	31 科学工作教室 「くるくるアニメを つくろう」
				2月の主な行事予定 2/1 心の健康づくりフェスティバル、スピカまつり 2/7 スピカの「ペアでクッキング」 2/8 香りびなづくり講習会、サイエンス広場であそぼう		

テレホンガイド

救急・火災
医療機関案内 ☎23-8199
火災情報 ☎0180-999-999

女性相談
スピカ ☎24-6180
(水曜と祝日を除く毎日、9時~16時)

教育相談
青少年教育センター ☎22-0077
(毎月第2、4木曜の17時30分~20時30分には、
夜間教育相談も受け付けます)

エイズ・性感染症相談
専用相談電話(フリーダイヤル) ☎0120-104-783

1月の健康テレホン
県保険医協会 ☎23-4300
3分間のテープで、祝日は前日の内容が流れます

月 エコノミークラス症候群 **火** 骨の癌
水 子どもに多い精神障害 **木** しもやけ、
あかぎれ **金** 入れ歯安定剤について
土、日 女性外来

人のうごき (12月1日現在)

総人口 239,683人 (-101)
男 112,718人 (-91)
女 126,965人 (-10)
世帯数 93,258世帯(-60)

11月中のうごき

転入 504 転出 587
出生 131 死亡 149

見て、聞く
させぼ
市政だより

テレビ 毎週土曜日放送(約5分間)
NBC(9時25分) NIB(11時25分)
NCC(11時40分) KTN(17時25分)

ラジオ
NBC 毎週日曜日 9時10分
FM長崎 毎週火曜日 9時05分
FM長崎
マイシティ
マイタウン 毎週土曜日 8時55分

長崎新聞 毎月第2、4水曜日広告欄

三川内焼美術館に行ってみませんか

~1月から作品の一部を入れ替え展示~

三川内焼美術館(三川内焼伝統産業会館内)は、心の博覧会が開催された平成8年に開館しました。館内には、水差しや茶碗、香炉、花瓶など平戸藩の下で磁器の製作を始めた17世紀中ごろから現在までの作品、約150点が展示されています。

三川内焼の特徴は、純白の白磁に映える繊細で優美な染め付けや、透かし彫りなど細工物の精巧さにあります。三川内焼の白磁の原料は熊本産の天草陶石と針尾の網代陶石を調合したもので、染め付けは焼き上げると藍色に発色する呉須を用いて絵を描く技術です。古美術品には、日本的な秋草文のほか江戸時代の日本ではあまり見られなかった孔雀や象、獅子なども繊細な筆使いで描かれています。また、想像上の動物、麒麟や竜の絵柄や細工物からも、大陸の影響をうかがうことができます。

館内は、半年ごとに約3分の1の作品が入れ替えられ、1月からは、写真の昭和9年商工省工芸展覧会入選作「染付松孔雀図筒形花瓶(作:金氏米蔵)」などが新たに展示されます。

採算を度外視し芸術性を求めた陶工たちによる古美術の逸品と、その精神と技を受け継いだ現代作家たちの作品を鑑賞し、三川内焼の歴史や特徴を学んでみませんか。開館時間は9時~17時(年末年始は休館)入館は無料 お尋ねは同館 ☎08080へ



歴史散歩 462

瓦づくりの祠(皆瀬町)

松浦鉄道の皆瀬駅裏にある馬場英雄さん方の庭先に、瓦づくりの祠があります。今は、お稲荷さんが祀られています。明治30(1897)年ごろここで創業した馬場瓦屋の主人・馬場伝平さんが、職人の守護者である聖徳太子をお祀りするために、まず最初に自分で作ったものと思われます。二重の鍔屋根を持つ祠は、信仰心が厚かった職人の心情をよく物語っています。



日本で最初に瓦が焼かれたのは588年、崇峻天皇の時です。古代朝鮮の百濟から仏舎利が献上され、寺を建てる技術集団の一員として瓦工が来日し、奈良に元興寺が建てられて屋根が葺かれました。その瓦の一部は今も極楽坊に残っています。建材としての瓦は、1400年もの風雪に耐える丈夫な物なのです。

日本の民家に瓦葺きが始まるのは、商家が密集して火事の延焼を防ぐ必要が出てきた江戸時代から。佐世保一帯で普及するのは明治維新を迎えてからで、馬場英雄さん宅(旧馬場瓦屋)一帯の風情も、文明開化の新時代を迎えたころの面影を残しています。

瓦の命は土と窯と言われ、相浦川沿いは良質の粘土が採れたのでしょ。土を練る「船場」は最も神聖な場所で、瓦の焼成(焼き上げ)は最後のいぶし焼仕上げまで複雑な手作業が求められました。

市内で最も早く瓦を焼いた記録があるのは、江戸時代に平戸城の御用瓦師を務めた旧広田村・納屋谷の丸田貞治瓦師です。

旧佐世保浦でも江戸時代から軍港になる明治19(1886)年まで、現在のSSK付近に瓦屋がありました。(筒井隆義)

